

長浜子ども歌舞伎

寿二人三番唄

長浜三役歌舞伎

傾城阿波の鳴門 どんどろ大師門前 多別れの場

長浜三役歌舞伎

釣 切 義太夫

なが はま 歌舞伎 発表会

午前の部

開演 10時半
開場 10時
終演時間 12時半 予定

午後の部

開演 14時
開場 13時半
終演時間 16時 予定

令和七年

11月30日 日

長浜文化芸術会館

〒526-0066 滋賀県長浜市大島町 37
TEL 0749-63-7400

ながはま歌舞伎の観劇について

長浜曳山まつりと曳山文化の保存伝承、情報発信と地域活性化を官民あげて取り組んでいる「長浜曳山まつり推進会議」への協賛二千元につき「ながはま歌舞伎」の招待券一枚をお渡ししています。協賛についてのお問い合わせは曳山博物館までお電話、ファックスまたはメールでお願いします。

TEL 0749-65-3300
FAX 0749-65-3440
MAIL museum@nagahama-hikiyama.or.jp

主 催：長浜曳山まつり推進会議 共 催：長浜市

長浜曳山まつり
Nagahama Hikiyama Festival

電子チケット



寿二人三番叟

寿式三番叟とは

能の「翁」を義太夫節にうつしたもので、五穀豊穡への祈りをあらわし、正月や特別な行事の際に、祝賀のために上演されます。

長浜曳山祭では、お目出度いときれる、壹番山で最初に演じられます。今回は長浜曳山祭令和六年度、令和七年度三番叟役者の二人で、二人三番叟を披露します。

出演者

家倉 壯和「小学六年生」
令和六年度長浜曳山祭三番叟役者

高橋 真守「小学四年生」
令和七年度長浜曳山祭三番叟役者

浄瑠璃 竹本 龍豊太夫

竹本 展 太夫

三味線 豊澤 湊 祝

豊澤 和 賀

どんどろ大師門前 手別れの場

あらすじ

今日は弘法大師の命日。お弓は尼妙珍、妙天と連れ立ってどんどろ大師に参詣に訪れます。そこに現れた一人の巡礼娘。その可憐な姿に惹かれた尼たちが身の上を尋ね始めると、生まれは阿波徳島、生きた別れた両親に会いたさのあまり一人で巡礼し、「父さんの名は阿波の十郎兵衛、母さんはお弓」と名乗ります。

聞いて「この娘は六年前に別れた我が子お鶴」と察したお弓。すくにも母親と名乗り、抱いてやりたいとも思うが、自らが（主人である阿波徳島玉木家の家老桜井主膳のために金策、盗みを働いている）罪人の身ゆえ、この娘を巻き添えに出来ないかと気丈に振る舞い本心を隠します。

尼たちが参詣に行き、お鶴と二人きりになったお弓は、我が子の行く末を案じ国へ帰って両親の帰りを待つようにと優しく言い聞かせます。

その言葉にお鶴は実の母のようないてほしいと手を合わせて頼みます。

母は子なる娘を振り払い突き放すと、お鶴は悲しみに暮れ心細げに立ち去って行きます。その姿に、どうしても堪らなくなつたお弓は悲痛な声で我が子の名を呼びながら後を追って行くのでした。

出演者

十郎兵衛女房 お弓 岩井 紫をり

同 娘 お鶴 山本 楓「小学一年生」

尼 妙珍 平田 富記子

尼 妙天 堤 園 子

茶店 亭主 華助 藤森 茂 樹

浄瑠璃 竹本 龍豊太夫

三味線 豊澤 湊 祝

鳴物 大橋 隆ノ介

釣 坊 義太夫

あらすじ

京の大名が美しい妻を授けたいと、独身の太郎冠者を連れて西宮の恵比寿神社に参詣します。祈願を込めて内陣でまどろむうち、西の門の一段の階段にいる女を妻にせよとの夢のお告げがあり、太郎冠者の聞いたお告げもまたその通りでした。

喜んだ二人が西の門に到着すると一本の釣竿が落ちています。釣り好きの恵比寿様のことゆえ、これで妻を釣れという意味と悟った大名が釣りを垂らすと、果たせるかな見事美しい上臈（じやうろう）が釣り上がりました。

仲睦まじく祝言をする二人を見て気持ち（は）る太郎冠者。自分も早く美しい妻を得ようと大名から釣竿を借り、一心込めて釣糸を垂らすと、これも見事に女を釣り上げます。大名の妻にも劣らぬ美女と早合点の太郎冠者は、さあ祝言だ、花見だ、涼みだ、雪見だ、とすっかり有頂天に。

ところが、いざ被衣（かづぎ）を取るとびっくり仰天、二目とは見られないフグのような醜女（しこめ）だったのです。太郎冠者に一目ぼれの醜女は、最初の太郎冠者の甘言をたてにとり、離れはしないと取りすがります。驚き逃げ出す太郎冠者を醜女はしつこく追いつて行くのでした。

出演者

太郎 冠者 岩井 小紫 八

大名 某 山根 加 織

上 臈 山口 奏

醜 女 岩井 紫 麻

後 見 吉田 陽 樫

後 見 中川 陽 葉

浄瑠璃 竹本 賀桐太夫

三味線 豊澤 賀 祝

鳴物 大橋 隆ノ介